

論壇

新興国の減速で株価低迷

2014年の春先に1100を付けていた石油価格指標WTIは、一時は35%を切るような水準まで下がっている。70%近い下落幅で、近年まれに見る低価格となっている。水準をみれば、08年のリーマン・ショック直後の安値に迫っている。

石油や天然ガスの全てを海外からの輸入に頼る日本にとっては、石油価格の下落は好ましいことであるはずだ。電力料金は下落の動きになった。石油関連を原材料として使っている企業のコストは低下し、これが業績改善につながっ

東大教授(国際経済学) 伊藤 元重

ている。

それでも、世界経済全体から見れば、この石油価格下落を懸念材料として捉える向きが強い。原油価格の下落が世界の主要国の株価下落の要因となっている。石油価格が下がることは石油を輸入に頼っている国にとってはプラス材料だが、石油価格が下落する背景に

退しており、それが資源価格の下落をもたらししている。資源価格が下がることで、中東やロシアなどの産油国の経済も厳しい状況になっている。

経済にとっては、何とも急激に変化することは好ましいことではない。石油価格が安いことは日本などには好ましいことではある

が、価格の急落ということになることは別だ。日本でも最近の株価が冴えない動きであることが、世界的な石油価格の暴落と密接な関係にあることは明らかだ。

石油価格下落のリスク

世界的な景気低迷があることを忘れてはいけない。

中国経済の減速がその象徴である。中国経済の減速により、石油を含む資源への需要が低下している。中国だけではない。ブラジル、ロシア、南アフリカ、トルコなど、多くの新興国や途上国の景気が後

が、価格の急落ということになることは別だ。日本でも最近の株価が冴えない動きであることが、世界的な石油価格の暴落と密接な関係にあることは明らかだ。

当面的世界経済の最大のリスク要因は、石油価格の動向である。いつの時期にも世界経済にはさま

ざまなリスクがあるものだ。どのリスクがより深刻なのかを見極めることが、経済の動きを理解する上で重要なポイントとなる。現時点では、石油価格の動向が最大のリスク要因となっている。

中東の政治情勢にも影響

中東の政治情勢にも影響

石油価格が暴落していることは、さまざまな政治リスクを伴うことになる。石油に大きく依存している中東の政治情勢は、石油価格によって大きく揺さぶられることになる。ロシアやブラジルなど石油や資源に大きく依存している経済も、資源価格の下落が大きな不安要因となっている。

世界の株価が石油価格下落を受けて同時に下がっているのは、こうした石油価格下落が意味するさまざまなリスクを反映したものである。ただ株価が下落することは、石油価格の下落によって恩恵を受けるはずの先進国の経済にとっては好ましいものではない。日本にとっても、来年に向けて景気が大きく回復するチャンスであるのに、その景気回復の芽を摘みかねない懸念材料となっている。

ただ、今の時点で過度に悲観的な議論をする必要はないだろう。石油価格がこのまま下落を続けるとも考えにくい。下落が止まり、石油が比較的安値で安定してくれば、それは日本経済にとっては好ましい姿でもあるからだ。そうした意味でも、年末から年初にかけての石油価格の動向に注目しなくてはならない。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。